

「第3次津山市子ども読書活動推進計画(案)～つやまっ子読書プラン～」に関するパブリックコメントの実施結果

番号	ページ	意見の概要	津山市の考え方	対応課
1	P5 第2次計画時に実行した3つの取組	項目については、横組から縦組にし、文字を大きくした方がよい。	読みやすいレイアウトに努めます。	生涯学習課
2	P9～ 第4章 子どもの読書活動推進のための方策	施策の方向性の通り、子育て関係部門等、子どもから大人まで、読書に親しみ、基本的生活習慣を整え、読書に繋がる環境づくりを実施してほしい。	関係部署との連携を進め、読書活動を推進します。	生涯学習課
3	P10 2.地域における子どもの読書活動の推進	ボランティア活動で全面的に進めることは、ボランティアが独り歩きしないよう慎重に行うべき。読書の意義を確認し、研修の場を踏んで、学校が主体となって取組む体制づくりをしてほしい。 また、大きな影響力を持つ市の研修会・講演会は慎重に行ってほしい。目に見える成果だけにとらわず、小さい身近な取組から、慎重に地道に行ってほしい。	今後も、指導者・ボランティア研修を実施し、読書の意義や重要性等の意識向上に努めます。	生涯学習課
4	P11 3.市立図書館における子どもの読書活動推進	・ぶっくまる(自動車文庫)の時に、読み聞かせや本の紹介コーナーもしてほしい。学校や保育園に積極的に訪問し、親子で参加できるイベントとしてもよいのではないかな。 ・子どもの読書活動の支援の施策の方向に、「来館する子どもにも資料の提供や本の紹介などを行い、子どもの読書活動を支援します。」とあるが、読書離れが進む中で、図書館に足を運んでもらわなければ、どんな素晴らしい企画も目にできない。子どもを連れて行く親もワクワクする企画をしてほしい。以前開催した「本の福袋」のように「どんな本と出会えるか」という興味や期待が利用者心理を刺激するので、もっとそのようなイベントを開催・宣伝し、足を運ぶきっかけにほしい。 ・市立図書館の子ども専用の貸し出しカウンターの設置が望まれる。県立図書館等を参考に検討・実施を切望します。 また、人材の育成、特に子どもの本専任の正規職員が必要ではないかな。 ・関係部署との連携とは、具体的にはどのような連携か。関係課で、横に縦に繋がり、継続的に乳幼児期の家庭教育支援に取り組んでほしい。	生涯学習課・学校教育課・こども課・健康増進課等の子育て関係部署との連携を深め、今後ともサービス向上と読書活動の推進に努めてまいります。	図書館

5	P13 ストーリーテリングの実施について	読書推進におけるストーリーテリングの役割は、年々重要性を増しているが、県北では認知度が低く、初心者向けの講座がない。学校や幼稚園でも年々、ストーリーテリングの活動が増加し、さらなる語り手の育成が必要。図書館員・学校司書・教師も専門的に勉強し、協力しながら子どもの読書推進に役立ててほしい。	H25年度読書ボランティア研修会で、ストーリーテリングを題材として挙げております。今後も、指導者の育成を進める研修講座の充実を図ります。	生涯学習課
6	P14 第3次計画で実行する3つの取組	項目については、横組から縦組にし、文字を大きくした方がよい。 第3次計画目標数値として、1週間の読書時間(小5)が1時間未満の児童を、10%未満とすると挙げているが、第2次計画時も同様の目標数値を挙げ、39%(H20)→35.8%(H25)と、目標を達成できていないのに、無理があるのではないか。算出根拠も必要ではないか。 つやまっ子に贈る絵本リストについて、本との出会いは個々それぞれで、限定されることは危険ではないか。リストを出せばよいものではなく、子どもに本を手渡す大人の存在が必要。公のリストとして提供するためには、子どもと本について広い知識を持ち、確かな目を持った方による選考・監修が必要ではないか。	・読みやすいレイアウトに努めます。 ・引き続き、第2次計画時の目標数値を達成するよう努めてまいります。 ・つやまっ子に贈る絵本リストは、読書を通じたコミュニケーションづくりと、大人に対する読み聞かせのきっかけづくりや啓発等を目的としています。作成については、市民や有識者などとの協働で作成します。	生涯学習課
7	P16 (2)各種情報の収集・提供	・ボランティアとしても、「生涯学習人材バンク」を上手く活用し、各地区の方が携わり、子どもを見守るのが、安心ではないか。地域と学校等が連携してほしい。 ・協働による子どもの読書活動推進体制において、「生涯学習人材バンク」登録者から、有識者を発掘・登用し、推進計画の立案に関わることが有効ではないか。	「生涯学習人材バンク」の充実を通じた情報提供に努めてまいります。	生涯学習課